



八雲町長

岩村克詔

新年あけましておめでとう  
ございます。

町民の皆さまにおかれましては、輝かしい希望に満ちた新年を健やかに迎えにいられたこととお慶び申し上げます。また、日頃から町政の推進にあたり、格別なるご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、感染者数が増加した多くの国や地域では、住民の行動を厳しく制限するロックダウンなど、感染の拡大を抑制するためのさまざまな対策が行われました。国内では緊急事態宣言が出され、出入国や都道府県をまたぐ往來の制限、不要不急な外出の自粛や休業が要請されるなど、人々の生活や経済に大きな影響を及ぼしたところであります。そのような中、八雲町独自の対策といまして、町内の中小事業者へ協力金や応援金の支給を

行ったほか、プレミアム付商品券の発行や町内全世帯と高齢者施設などへマスクの配布を行ったところであり、引き続き感染状況を注視しながら必要な対策を講じてまいります。

さて、早いもので町長としての任期も残すところ10ヶ月となりました。私は、これまで八雲町に対する郷土愛一筋に、町の振興発展を夢見ながら町政運営を進めてまいりました。歯止めのかからない人口減少と少子高齢化の進行を少しでも緩和するためには、基幹産業の振興が急務であり、後継者不足により離農が続き、経営体が減少している酪農を持続可能な産業として維持するため、担い手の確保を図ることを目的に、道南初の酪農研修牧場「大関牧場」の本年4月の本格稼働を目指しているほか、噴火湾のホタテ養殖漁業の減産や日本海のイカ漁業の不振、秋サケの水揚

も減少が続き、漁業経営が大変厳しい状況となっていることから、新たな養殖事業として、昨年度より試験的に実施しております「北海道二海サーモン」の海面養殖の事業化実現に向けた取り組みを進め、北海道ブランドの確立を目指してまいりたいと考えております。

また、民間企業が平成29年度から山崎・花浦地区で整備を進めておりました、蓄電池併設型のメガソーラー発電所としては国内最大級を誇る「ソフトバンク八雲ソーラーパーク」が完成し、昨年10月から本格稼働しております。年間予想発電量は約1億68万2千kWhとなり、一般家庭約2万8千世帯の年間電力消費量に相当いたします。このような再生可能エネルギーは、八雲町が目指す持続可能な地域社会実現に向けた、大きな一歩であると思っております。

ふるさと納税は、令和元年度において、国の指導に基づき返礼品割合を見直したにもかかわらず、24億5千万円を超える寄附を道内外からいただき、町の財政安定化に寄与している状況であります。

また、国が地方創生の充

実・強化に向けて、地方への資金の流れを飛躍的に高める観点で「企業版ふるさと納税」の拡充を図る大幅な制度改正を行ったことから、八雲町では、令和2年度より「企業版ふるさと納税」の事業認定を受けまして、昨年11月末日現在で37の企業さまから寄附をいただいたところでございます。今後も地域の活性化につながる仕組みを構築しつつ、魅力ある八雲町をPRしてまいります。

医療の充実が地域で安心して暮らすために重要な条件の一つであり、それを担うのは八雲総合病院と熊石国保病院でございます。

八雲総合病院は北渡島檜山地域センター病院としてその役割を果たしているよう、引き続き医師確保と経営改善に努めてまいります。

また、熊石国保病院は建設から50年が経過し老朽化が著しいことから、建て替えの基本設計を行っております。今後も地域住民や近隣地域からも信頼される医療機関として、地域医療の確保・充実に努めてまいります。

このコロナ禍において、日々医療の最前線で患者さまの治療にご尽力いただいでお

ります、医療従事者の皆さまに心より敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

令和2年10月1日で「旧八雲町」と「旧熊石町」の合併から15年の節目の年を迎えました。合併に向けご尽力をいただきました協議会議員の皆さまならびに合併協議に関わっていただきました多くの皆さまのご苦労に対しまして、深い敬意と感謝の念をささげるとともに、少子高齢化・人口減少社会への対応など大変厳しい将来が予想される状況であつても決して悲観することなく、チャレンジ精神をもって多くの課題に立ち向かっていく決意を新たにいたしました。将来にわたって地域住民が夢と希望を持って安心して暮らせる八雲町実現に向けて、私をはじめ全職員一丸となって一層の努力をさせていただきますので、本年も町民皆さまの特段のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。